

伊豆市監査委員 告示第 4 号

地方自治法第 199 条第 4 項の規定に基づき定期監査を実施したので、同条第 9 項の規定により、監査の結果を次のとおり公表する。

平成 27 年 11 月 17 日

伊豆市監査委員 宮内 知秋

伊豆市監査委員 三田 忠男

記

1. 監査の期日 平成 27 年 10 月 27 日 (火)
2. 監査の対象 教育部社会教育課、図書館、教育総務課、学校教育課
3. 監査の方法  
提出を求めた監査資料等に基づき、各担当課の説明を受けた後、事情聴取並びに関係書類の審査を行った。
4. 監査の結果  
監査を実施した範囲においては、関係法令等に準拠して執行されており、特に指摘事項はありません。
5. 監査の概要、意見  
対象部課の監査結果の概要及び意見は、次のとおりです。

教育部

(1) 社会教育課

- ① 生涯学習推進事業費補助金は、各地区で実施される生涯学習推進活動に対して、2 万円を上限として交付している。本年度は、これまでに 78 の対象地区の内 57 地区から申請があり補助金を交付した。

本事業は、地域コミュニティを推進する一助となる事業として位置づけられている。各地区から提出される実績報告書を基に、特徴のある取り組みや課題解決につながる事例を紹介する手引書を作成するなどして、今後も育てていただきたい。

- ② 伊豆市資料館は、旧中伊豆歴史民俗資料館の建物に旧修善寺郷土資料館の資料を合わせて収蔵し開館した。

展示については、上白岩という立地を考慮し、上白岩遺跡やジオサイトに関連する資料を中心に展示し、市内全域の風土や歴史・文化などを紹介する資料についても徐々に展示公開する予定であることを確認した。

本施設が、伊豆市の資料館としてふさわしいものとなるよう企画展など充実した展示を行い、文化振興に資するとともに来館者の増加につなげていただきたい。

なお、旧修善寺郷土資料館で展示公開していた日本画については、この施設に展示環

境が整っていないことから、当分の間は他の美術館に貸し出し、作品の公開とともに伊豆市を紹介していく予定であることを確認した。

- ③ 各種団体への補助金については、一部の団体において、補助金交付申請の予算書にない支出項目が見られた。補助対象経費については明確に指導するとともに、各団体の体力、補助目的等により、補助金額の見直しもお願いしたい。
- ④ 社会教育課が委託する指定管理施設は、狩野川記念公園、中伊豆屋内温水プール、天城温泉プール、修善寺体育館・グラウンドの4施設である。指定管理料については、維持管理運営経費から利用料金収入を差引いた額で算出していることを確認した。

【平成27年度指定管理の状況】

施設名	指定管理料	契約期間	指定管理者
狩野川記念公園	11,150,000円	H24.4.1～ H29.3.31	(株)サンアメニティ
中伊豆屋内温水プール・天城温泉プール	34,459,000円	H26.4.1～ H31.3.31	(有)伊豆スイムサポート
修善寺体育館・グラウンド	12,246,000円	H25.4.1～ H28.3.31	NPO伊豆市体育協会

- ⑤ スポーツ推進委員事業の状況を確認した。今年度は、出前軽スポーツ教室の回数を増やし、これまでに8回開催し227人の参加があったが、他の教室においては、極端に参加人数が少ないものもある。

出前教室は好評のようであるが、団体にターゲットをしばった教室や健康マイレージの事業などとも連携するなど、参加人数の確保に努めていただきたい。

(2) 図書館

- ① 図書館システムは、市内の図書館4館を市内ネットワークで結び、貸出・返却・予約等の窓口業務、利用者管理、資料管理、インターネットを使った図書館サービスなど、円滑な図書館運営を実施するために有効に活用している。本システムは導入から5年間のリース期間が満了し、本年9月1日から平成28年8月31日までの再リース契約を行った。再リース後の月額の使用料は218,160円である。
- ② 図書館の来館者数及び図書の貸出し状況を確認した。本年度9月末現在の来館者数は、修善寺図書館以外の各館については増となったが、全体では2.8%の減となった。また、貸出者数においても中伊豆図書館以外の各館で減となり、全体では3.9%の減となった。

【平成27年度図書館利用状況 9月末現在】

館名	来館者数	貸出人数	1日平均来館者数	1日平均貸出者数
修善寺図書館	37,859人	12,492人	258人	85人
中伊豆図書館	5,725人	2,434人	39人	17人
天城図書館	3,142人	1,266人	21人	9人
土肥図書館	4,207人	1,507人	29人	10人
合計	50,933人	17,699人	347人	121人

- ③ 各図書館では講座や教室の開催を行っている。平成 26 年度の参加人数は 3,009 人で前年比 477 人の増であった。これは、修善寺図書館で開催している「日曜日のお話会」や「出前お話会」の開催日を増やしたことなどによる。

今後は、世代を超えた交流の場となるよう、高齢者の生きる張り合いを高める工夫などもお願いするとともに、より魅力ある講座や教室を企画するため、市民の希望の収集やアンケートを実施し、図書館利用に結び付けていただきたい。

- ④ おすすめの本や話題の本等の、ディスプレイの工夫やPOP等を検討しているというが、来館者の読書意欲や図書の利用増に繋がることを期待します。
- ⑤ 図書館では、毎年 50 点ほどの図書館資料の持ち出しがあり、大仁警察署から防犯のためカメラの設置を進められた経緯もあり、抑止力や防犯を目的に館内に 5 台の防犯カメラを設置し、9 月から稼働していることを確認した。

### (3) 教育総務課

- ① 第 2 次伊豆市学校再編計画について確認した。

学 校	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	備 考
土肥小学校	準備	⇒	⇒	廃校						小中一貫校開校のため
修善寺地区小学校			準備	⇒	⇒	⇒	⇒	廃校		4 校を 1 校に再編
土肥中学校	準備	⇒	⇒	⇒	開校	⇒	⇒	⇒	⇒	小中一貫校として開校
修善寺中学校		準備	⇒	⇒	⇒	廃校	準備	⇒	開校	修善寺地区 4 小学校を再編
中伊豆中学校		準備	⇒	⇒	⇒	廃校				
天城中学校		準備	⇒	⇒	⇒	廃校				
新中学校	準備	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	開校	⇒	⇒	3 中学校の再編

再編計画をすすめていくためには、市民への丁寧な説明が必要である。ガーデンシティ計画との整合性も取りながら、説明会等に参加できない市民にもチラシなどを作成し情報の発信をお願いしたい。

- ② 放課後児童クラブについては、今年度から新制度を施行し、対象児童の拡大、利用者負担金減免規定などにより、利用者が前年比 11%の増加となった。今後も増加が予測されるが、需要増に対応する施設や指導員の配置が必要となる。なお、放課後子ども教室との関連も調査研究をお願いしたい。
- ③ 伊豆市の奨学金制度は、経済的理由により就学が困難な生徒及び学生に対して貸与するもので、高等学校は月額 16,000 円、専門学校や大学等は月額 20,000 円を上限に貸与している。

奨学金に充てる基金総額は 24,943,744 円で、平成 26 年度末現在の貸付額は 10,681,600 円である。利用状況については 9 名に貸付中であり、14 名が償還中であることを確認した。現在、基金に余裕もあることから、さらに周知し有効な活用を図っていただきたい。

- ④ 学校施設改修工事の状況については、本年度は特に遊具の見直しを行い、市内 4 小学校の危険遊具の解体工事を行った。遊具については、毎年定期点検で安全確認を行い、

不良個所があれば使用禁止としている。その他、各学校の改修工事を 14 件行っているが、1 件 100 万円を超える大きな改修工事はないことを確認した。

- ⑤ 給食費の収納状況については、平成 25 年度末に 372,500 円の欠損処分を行い、その後も滞納額は年々減少している。収納事務における職員の努力が認められるが、未納額を無くすようさらなる努力を望みます。

(3) 学校教育課

- ① 学校教育課で委嘱する委員・相談員の活動状況を確認した。

[特別支援教育コーディネーター] 教育上特別な支援を必要とする児童生徒を観察し、支援方法等について学校、保護者に対し指導助言を行う。

[スクールソーシャルワーカー] 学校と保護者または外部との接続の役割を担う。

[巡回相談員] 臨床心理士が特別支援の対象児童生徒の WISC 検査等を行う。

- ② 平成 26 年度に「田方教育相談室」で対応したいじめ相談件数は 1 件であったことを確認した。だれかに話したい時は「田方教育相談室」があると説明を受けたが、生徒や保護者、親戚、近所の方が気軽に相談できる場所であることを広報紙や区長会などあらゆる機会をとらえて広報していただきたい。

全国で見ると、平成 26 年度小学校のいじめ件数は 12 万 2,721 件、中学校は 5 万 2,969 件との公表がある。児童・生徒の性格は様々で、心の苦痛の感じ方も多様なため、些細な事でいじめ問題は深刻化する。児童・生徒の変化を見逃さず、教員間の情報を共有して的確な対応をお願いしたい。

- ③ 伊豆市の教員の研修は、法定研修として初任者、2 年次、5 年経験者、10 年経験者研修を行っている他、2 市 1 町で組織する「田方地区教員研修協議会」が、経験 2 年目から 5 年目教員、40 歳及び 50 歳教員全員を対象とした研修を行っている。さらに、担当教員が参加する県の悉皆研修、「伊豆市教育センター」による研修などが行われていることを確認した。

教員間の研究発表などは、各学校が発行する学校だより等を通して市民にも広報をお願いしたい。

- ④ 伊豆市では、ALT 派遣業者と委託契約を締結し、ALT 6 名を市内の幼稚園・保育園・こども園、小学校、中学校に配置している。子どもたちにとって外国人や生きた英語に触れることは大変有意義なことであると認識しているが、英語弁論や英語劇の開催などにより、その成果をより具体的に評価し次期の契約を検討されたい。

- ⑤ 伊豆市の教員の年齢構成は、50 歳以上が 54%、40 歳以上 50 歳未満が 23%であり、ベテラン教員が多い構成となっている。また、男女比は、男性が 53%となっている。

全国的に見ても、今後 10 年間でベテラン教員の 3 分の 1 が退職し、経験 10 年未満の教員が 3 分の 1 を占めることになるという。